

お母さん、
私はこの子を持って
日本という国に行きます。

レオニー

エミリー・モーティマー 中村獅童

原田美枝子 竹下景子 / クリスティーナ・ヘンドリックス メアリー・ケイ・プレイス
柏原崇 山野海 大地康雄 / 勅使川原三郎 / 中村雅俊(友情出演) / 吉行和子

「ユキエ」「折り梅」の松井久子監督最新作

制作・脚本・監督：松井久子 原案：トラスティ「イサム・ノグチ―芸術の超境表」(講談社刊) プロデューサー：アッシュ・アムリウツ 永井正夫 伊藤美智
エグゼクティブ・プロデューサー：パトリック・アエロ ジョイス・ジョン 冨澤博一 / 撮影：水田勉男 / 照明：佐野武志 / 美術：山口健 ジョーエル・マスターズ
録音：久保田幸雄 / 衣裳：高澤利子 アダプト・ロジャース / 監製：藤田謙二 エグゼクティブ・プロデューサー：ケン・ムラタキ / オリジナル・サウンドトラック：EPCレコードジャパン
企画制作：レオニーパートナーズ合同会社 / 共同制作：(株)エンタテインメント・システムズ Hyde Park Entertainment / 出資：(株)emda 北海道レオニーファンド / 配給：(株)角川映画
協賛：清水ハウス株式会社 ベネッセ・コーポレーション ジョントーン・エンタテインメント株式会社 / 助成：(社)企業メセナ協議会 / 協力：マイレジャー / 後援：札幌市 愛知府 高松市
©レオニーパートナーズ合同会社
leonithemovie.com



天才彫刻家イサム・ノグチの原点——母、レオニー・ギルモアの波乱にみちた生涯



100年前
ひとりで日本の地を踏み
天才を育てた女性がいた。
彼女の名はレオニー。

レオニー



配給：角川映画。2010年/日本、アメリカ合作/カラー/162分/スコープサイズ/SRD ©レオニー/パートナーズ合同会社 leoniethemovie.com

彫刻家イサム・ノグチを育て、自らも波乱の時代を生き抜いた
一人のアメリカ人女性レオニー・ギルモアの生涯。

20世紀初頭のニューヨーク。これからは女性も仕事を持って生きる時代と、
文学の道に進む夢を持ち、希望に満ちた人生が待っていたはずだったレオニー。
しかし、一人の日本人青年との出会いによって彼女の人生は波乱に満ちたものとなっていく・・・。
レオニーは彼を愛し妊るが、男は一方的に日本へ帰国してしまう。シングルマザーとなった彼女は、
子供とともにアメリカと日本の二つの国で、困難な時代を生き抜いていく――。

我が身の不幸を嘆くよりも、潔く運命を引き受け、自分らしく生きていこう。それが彼女の信念であり、

また我が子に伝えたいたった一つのことだった。イサム・ノグチと命名された子供は、
長じて「地球を彫刻した男」として世界中にその名を知られる芸術家へと成長していく。

自らの意志で未来を切り拓いて行くレオニーの生き方は、多くの人々の心を打ち、勇気と感動を与えてくれるだろう。

国境を越え、時代を超えて、世界中の人々の心に届く映画を。

「ユキエ」「折り梅」で家族の絆を描き、のべ200万人を動員、日本中
を感動で包み込んだ松井久子監督。3作目は世界の観客に感動を届
けたいと、果敢に選んだ題材は彫刻家イサム・ノグチの母レオニー・
ギルモアの物語だった。ドウス昌代の「イサム・ノグチ～宿命の越境
者」に感銘を受け、推敲を重ねた脚本は14稿、作品完成までの道の
りは7年に及んだ。その松井久子の熱意に、フランス・セザール賞の

撮影監督永田鉄男や、アカデミー賞に輝く作曲家ヤン・A.P.カチュマ
レクなど世界で活躍する一流のスタッフが集結し、日米13都市に
わたるロケ地で撮影を敢行。美しい風景の中で繰り広げられる、切
なくも力強い、一人の女性の人生を描いている。詩情漂うシーンが
折り重なり、見終わったとき自然と暖かな涙が溢れる感動作を作り
上げた。



実在した一人の女性の人生を、さらにドラマチックにする豪華キャスト陣。

主人公のレオニー役に抜擢されたのは、「マッチポイント」「シャッ
ター アイランド」などに出演し、アメリカと母国イギリスで「若き演
技派」と注目されているエミリー・モーティマー。レオニーが愛した
男、野口米次郎には歌舞伎のみならず、映画、TVドラマ、CMなど幅
広く世界へ向けて活躍し続けている中村獅童。そして、彼らに様々な

影響を与える登場人物にも、原田美枝子、吉行和子、竹下景子、柏原
崇、大地康雄といった実力派キャストが名を連ねている。また、友情
出演として中村雅俊が参加。さらに、イサム・ノグチを彷彿とさせる
彫刻家役を舞踊家・勅使川原三郎が演じるなど、日米合作にふさわし
い豪華俳優陣が集結し、物語をよりドラマチックに仕立てている。

11月20日(土)全国ロードショー! シネプレックスつくば
TOHOシネマズ流山おおたかの森
特別鑑賞券(¥1,000)は裏面の申込用紙をご利用下さい

と一緒に、虹を見ましょう！

2009年7月11日(土)曇時々晴れ。アメリカ・ニューオリンズのクランクインから3ヶ月が過ぎたその日、茨城県つくばみらい市の丘の上に建てた小さな家の前で、私たちの撮影は最終日を迎えていました。

長い道のりだったのに、たった3ヶ月で終わってしまうのか…もっとこのまま皆と一緒に現場にいたい…そんな思いで照明の調整を待っていたとき、ふと見上げた青い空に、虹が出ていたのです。狐につままれたような、とても不思議な体験でした。

一本の映画をつくることで、世界がほんの少しでも動いたら…。

そんな思いにかられて、『レオニー』のシナリオを書き始めました。その後は、希望と挫折を交互に繰り返し、ジェットコースターに乗っているような日々を送って丸7年、この春ついに映画は完成しました。「作りたい人の思いが強ければそこに「磁場」ができて、吸い寄せられるように人が集まってきて、その磁場が更に強いものになる。『レオニー』ができたのは、よほど「思いの磁場」が強かったのでしょう」

完成試写会の席での女優・原田美枝子さんの言葉です。実際「思いの磁場」をここまで強固なものにくださったのは、全国のマイレオニーの皆さまに他なりません。改めて、これまでのご支援ありがとうございました。

「ユキエ」と「折り梅」は観客の手によって広められていき、私はいつの間にか「観客に育てられた監督」と呼ばれていました。全国の観客の皆さまとの間で味わった一体感はかけがえないものであり、私にとって最高の勲章でした。

これまで応援してくださった皆さまと一緒に、もっと大きな虹を見たい…。

「3本目は劇場で、世界に通用する、映画らしい映画を」との7年をかけた夢がようやく実現して、いよいよ秋から始まるロードショー。それが興行的にも成功したら、世界は少しだけ動くかもしれません。真っ当なものの価値が、真っ当に尊重される時代に向かって—。

まずは皆さまの後押しで作ることのできた『レオニー』を観てください。そしてぜひ周囲の皆さんに広めて頂けますよう、よろしく願っています。



製作・脚本・監督
松井久子

私たちサポーターの次のミッションは、特別鑑賞券で“レオニー現象”を起こすこと

“私たちが観たい映画の製作を応援しよう”という思いを込め、2005年11月にスタートさせた「マイレオニー」。我らが松井久子監督はついにこの春、私たちが、そして日本が世界に誇れる映画『レオニー』を完成させました。あらためて、サポーターになって支えてくださいました皆さまに、心より御礼申し上げます。

『ユキエ』『折り梅』応援団を経て集結した私たちマイレオニーのこの5年間のさまざまなアクションは、既存の映画業界の人々をも驚かせることとなり、私たちの存在が角川映画という大手の配給会社を動かして、ついに11月20日からの全国劇場ロードショーの決定となりました。

このほど出来上がった「マイレオニー特別鑑賞券」は、一般の通常前売券(1,300円)とは別に、角川映画が1枚1,000円で作ってくださったものです。そう、私たちサポーターの次のミッションは『レオニー』をひとりでも多くの方に劇場で観ていただくこと。

たとえば、サポーターおひとりが10人のお友達に10枚入りの封筒を預けていただき、お友達が10枚ずつ売ってくださったなら、それでもう30万枚の前売券が売れているという快挙が果たせます。マイレオニーの輪を皆さまが広めてくださった時と同様に、多くの人が『レオニー』公開に期待している、という現象を、今度は劇場公開の前に起こすことが、全国の人々に『レオニー』に注目してもらうために大切なことです。本当に良い映画、大切の人に薦められる作品を自分たちの手でヒットさせるというチャレンジを一緒にしていきましょう。

劇場公開の11月20日土曜日、そしてその後も、日本中の劇場を満場の拍手で溢れさせて、私たちの『レオニー』を送り出しましょう！ 皆さまのご協力どうぞよろしくお願いいたします。

松井久子監督の第三作を応援する会 マイレオニー
事務局代表 斎藤弘美

皆様の想いを伝えてください。

製作時から注目され、大きな話題となっています！

